

群 教 セ	G02 - 02
	平 15.216集

マルチメディア教材 「なるほど・ザ・だるま」の作成

特別研修員 藤巻 学（安中市立碓東小学校）

《研究の概要》

本研究では、小学校4年社会科単元「伝統をうけつぐ」のだるまの学習において、だるまの歴史や由来を調べたり、昔と今の生産工程を比較して見られたりできるマルチメディア教材「なるほど・ザ・だるま」を作成した。だるまの生産工程をイメージできるような動画や静止画を取り入れることにより意欲的な学習を促し、地域の特色や伝統を守り継承している人々の工夫や努力に気付けるようにした。

【キーワード：社会 - 小 だるま 地域教材 伝統文化 マルチメディア】

主題設定の理由

小学校学習指導要領社会科中学年の目標には「地域の地理的環境、人々の生活の変化や地域の発展に尽くした先人の働きについて理解できるようにし、地域社会に対する誇りと愛情を育てるようにする」と示されている。本研究で扱う単元「伝統をうけつぐ」の学習では、県内にある伝統的な工業を学習し、地域の特色や伝統を守り継承している人々の努力について理解しながら地域社会に対する誇りと愛情を深めるものとして扱う。

本校の第4学年の社会科では、単元「伝統をうけつぐ」の中でだるまについて学習する。だるまはとても身近なものであり、その歴史も古い。現在高崎だるまの生産店は79軒あり、高崎や安中地区に集中している。年間160万個を出荷しており、全国の張り子だるまの8割を占める群馬県を代表する伝統工芸品である。

だるまの学習を進めるにあたり、校区内にも数軒のだるま生産店があるが、時間的な制約や生産店の規模の問題や受け入れ態勢などにより、思うように工場見学に行くことができない。また、だるまができていくまでの生産工程を専門の工場が分担しており、すべての生産工程を見ることもできない。そのため、断片的な知識や理解に陥りやすいという問題がある。さらに、資料の数も少なく、そのほとんどが大人向けであるため、だるまの歴史や由来などが児童には分かりにくいという問題もある。特に、大量生産に伴って生まれ、新しい技術として取り入れられた「真空成形」は、箱の内部で行われるために児童にとってイメージすることが難しい。

そこで、だるまの学習を支援できるようなマルチメディア教材を作成したいと考えた。生産工程の動画や静止画を見たり調べたりすることにより、児童はだるまができるまでの生産工程をイメージすることができる。また、だるまの歴史や由来、地域との結びつきを調べることをとおして、地域の特色に気付くことができる。さらに、「真空成形」についても視覚に訴えることからイメージすることができ、伝統を守りつつも新しいものを取り入れようとする工夫や努力に気付くことができる。そして、昔と今の生産工程を比較したり、今なお手作業で行われている「まゆ・ひげかき」の疑似体験を行うことを通して、伝統を守り続ける人々の苦勞などにも気付くことができると考えた。

以上のことからマルチメディア教材「なるほど・ザ・だるま」を作成することは、だるまの学習において児童の意欲的な学習を促すとともに、地域の特色や伝統を守り継承している人々の工夫や努力に気付くことができると考え、本主題を設定した。

研究のねらい

小学校4年社会科単元「伝統をうけつぐ」のだるまの学習において、児童の意欲的な学習を促し、地域の特色や伝統を守り継承している人々の工夫や努力に気付くことができるマルチメディア教材「なるほど・ザ・だるま」を作成し、授業の中で活用し、その有効性を明らかにする。

研究の見通し

だるまの生産に関する動画や静止画を豊富に取り入れ、Web ページ形式にまとめれば、児童の意欲的な調べ学習を促すマルチメディア教材が作成できるであろう。

作成した教材をだるまの学習で使用すれば、だるまの歴史や由来を調べたり、昔と今の生産工程を比較したりすることをおして、地域の特色や伝統を守り継承している人々の工夫や努力に気付くことができるであろう。

研究の内容

1 マルチメディア教材「なるほど・ザ・だるま」の概要

(1) 基本的な考え方

児童がだるまの作られる場面を見たことがないこと、だるま工場への見学に行けないことなどを考慮し、生産工程をイメージできるような動画や静止画を多く取り入れた Web ページ形式の教材を作成する。

児童の意欲的な調べ学習を促すために、だるまが完成するまでのひとつひとつの生産工程を動画で見られるようにし、それぞれの生産工程に静止画を入れた解説のページを設ける。また、だるまが作られていく様子や生産工程の流れ全体がわかるように、一連の生産工程を見られるようにする。

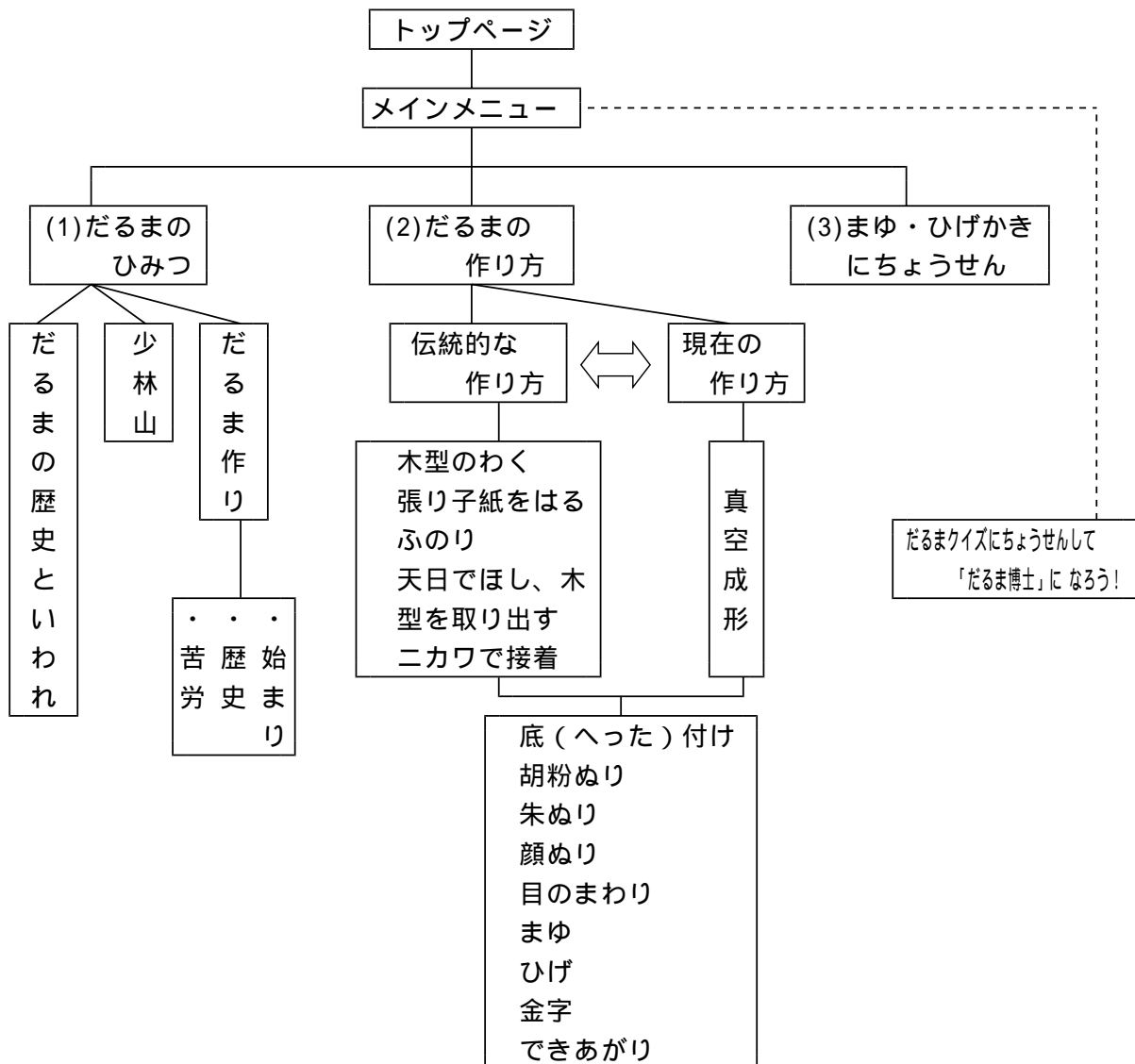
地域の特色に気付くことができるように、だるま作りが長い間栄えてきた歴史やだるま作りと地域との結びつきについて調べられるように配慮する。特に、からっ風や冬の降水量などの自然環境、また養蚕が盛んであったこと、さらにだるまと縁の深い少林山達磨寺やだるまの歴史や由来など、だるま作りがこの地に根付き繁栄してきた資料を入れる。

今と昔のだるま作りの違いに着目することができるように、だるまができていくまでの生産工程を、時代と共に新しい技術や機械が導入された生産工程と今も昔も同様に行われている生産工程の2つに大きく分けて構成する。さらに、地域の人々の工夫や努力に気付けるように、伝統的な作り方と現在の作り方を比較しながら動画で見ることができるようにする。また、大量生産に伴って導入された真空成形は、だるま作りに携わる人々の工夫や努力によって30年ほど前に生み出された方法であるが、動画だけではその仕組みや原理を理解することは難しい。そこで、伝統を守りつつも新しいものを取り入れようとする工夫や努力に気付くことができるように、箱の内部やだるまができていく様子などをイメージできる静止画と合わせて児童にもわかりやすい解説を盛り込む。

伝統に触れることができるように、印刷しただるまにまゆやひげを描き入れる活動ができる「まゆ・ひげかきにちょうせんしよう」のページを作成する。

楽しみながら学習内容を確認できるように「だるまクイズにちょうせんしてだるま博士になろう!」を作成する。児童が取り組みやすいように三択問題にし、正解すると解説のページに移り、学習内容を確認できるようにする。

(2) マルチメディア教材「なるほど・ザ・だるま」の構成



2 「なるほど・ザ・だるま」の内容

起動するとトップページが立ち上がり、だるま作りの様子が4枚の静止画で表示される。トップページの静止画をクリックするとメインメニューになる(図1)。

メインメニューには、「だるまのひみつ」、「だるまの作り方」、「まゆ・ひげかきにちょうせん」へのリンクが設定してある。

また、「だるまクイズにちょうせんしてだるま博士になろう!」では児童が学習のまとめとして楽しみながら学習内容を確認できるようにした。



図1 メインメニュー

(1) だるまのひみつ

「だるまのひみつ」では、だるま作りと地域との結びつきや地域の人々の工夫や努力などいろいろな視点からだるま作りについて考え、地域の特徴に気付くことができる。内容を「だるまの歴史といわれ」、「少林山」、「だるま作り」に分けることにより、児童が知りたいことを見つけやすくした(図2)。

「だるまの歴史といわれ」では、だるまの由来や形の変遷、だるま作りが養蚕と共に地域に繁栄してきた歴史などについて知ることができる。

「少林山」では、霊符堂や達磨堂、安置されている達磨大師や達磨堂本尊など、だるま作りの起源となった少林山についての資料を入れた。少林山について調べることにより、だるま作りとの深い関わりに気付くことができる。また、達磨堂の中のそれぞれの地に根付いた全国各地のだるまも見ることができる。

「だるま作り」では、伝統を守り継承している人々の努力や苦勞、だるま作りが盛んになった気候風土との関係についての解説を入れた。

(2) だるまの作り方

「だるまの作り方」では、だるま作りの生産工程を見ることができる(図3)。

だるま工場の見学に行けないという現状を考慮し、だるまが作られていく様子を見ることができるよう完成までのすべての生産工程を動画で見られるようにした(図4)。

また、一連の生産工程をつなげて見ることにより、だるま作りの流れ全体を把握できるようにした。それぞれの生産工程にはその様子が分かるような静止画を設け、静止画をクリックするとその生産工程の解説のページに移る。

さらに、伝統的な作り方と現在の作り方の違いを見ることができ、できあがるまでの生産工程を、新しい技術が導入された生産工程と昔ながらの手作業で行っている生産工程に分けて



図2 だるまのひみつ



図3 だるまの作り方



図4 「矢日でほし、木型を取り出す」の工程

構成する。これにより、伝統的な作り方と現在の作り方の違いに着目して比較しながら見るができる。

「真空成形」については、箱の内部でだるまの形ができあがるため、動画だけでは児童ができあがる様子をイメージすることは難しい。そこで、箱の内部やだるまができあがった瞬間の静止画、解説を入れたページを作成した（図5）。

箱の内部の様子やその中に入っている金型や金型に張ってある網など、その様子が分かる静止画を入れることにより、だるまができあがる様子やできる原理を説明した。

(3) まゆ・ひげかきにちょうせん

「まゆ・ひげかきにちょうせん」ではまゆやひげを描き入れるだるま作りの疑似体験を通して、伝統に触れることができる（図6）。

まゆは鶴、ひげは亀をイメージして描くことや左右対象に描くなどの注意点を入れ、描く際の参考とする。また「お手本を見てみよう」をクリックするとまゆひげ描きの映像が流れ、児童がその様子を見ながら描けるようにした（図7）。

「まゆ・ひげかきにちょうせんしてみよう」をクリックすると「だるまシート」が印刷される（図8）。「だるまシート」には顔塗りまでの生産工程が終わった段階のだるまが印刷されている。それに、まゆひげ、金字（願い事）を描き入れて自分のだるまを完成させる。だるま作りの生産工程の中で、一番難しく重要である「まゆ・ひげかき」を疑似体験できる。



図5 真空成形の箱の解説



図6 まゆ・ひげかきにちょうせん



図7 お手本を見てみよう



図8 だるまシート

3 実践の結果と考察

(1) 学習指導計画

対象 安中市立碓東小学校4年生

教科等 社会科 単元名「伝統をうけつぐ」

単元の目標

だるま作りについて調べることを通して、地域の特徴と伝統を守り継承している人々の工夫や努力に気付くことができる。

指導計画 (10時間)

授業実践は、4年生の1組(31名)、2組(30名)においてそれぞれのクラスで実施した。

過程	時間	主な学習活動	学習への指導及び支援
ふれる	1	だるまや張り子（昔と今のもの）などに触れ、だるま作りについての学習課題をたてる。	だるまや張り子などを見たり触れたりすることによって、疑問や課題を引き出し、興味・関心を喚起させる。 張り子（昔と今のもの）の手触りや重さなどを、比較させることにより、生産工程の違いに気付かせるようにする。
追求する	4	本教材を使用して、設定した課題を追求する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p style="text-align: center;">課題例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・だるまはどのように作られるのか。 ・作り方やだるまの形は昔と今では違うのだろうか。 ・だるまはどうして作られるようになったのか。 ・だるま作りで大変なことは何だろう。 ・どうしてだるま作りが盛んになったのか。 </div>	「だるまのひみつ」「だるまの作り方」 教科書（副読本）と合わせて本教材を使用して、調べさせる。 伝統的な作り方と現在の作り方を比較しながら見ることにより、新しい技術の良さや伝統を守り続ける人々の工夫や努力にも気付かせるようにする。 動画や静止画などを見て、気付いたことや感想なども持てるようにする。
	1	本教材を使用して、まゆ・ひげかきをする。	「まゆ・ひげかきにちょうせん」 実施後に感想を書かせ、伝統を守り継承している人々の努力に気付かせるようにする。
まとめる	3	調べてわかったことや気付いたことを新聞や画用紙、模造紙などにまとめ、発表する。	文章や絵など、自分なりの方法でまとめる。
	1	本教材を使用して、学習内容を確認する。	「だるまクイズにちょうせんしてだるま博士になろう！」 学習内容をしっかりと確認させる。

(2) 結果と考察

導入の段階では本教材を使用せず、だるまや張り子、材料（にかわ、和紙、貝殻）などを児童に提示し、そこから課題を見つけさせた。その後、個々に設定した課題について、パソコン室で副読本と合わせて本教材を使用して調べ学習を行った。

だるまは児童にとって身近なものだが、ほとんどの児童がその作り方や歴史などについては知らなかった。そのため、意欲的にいろいろなページを見ながら調べている姿が見られた（図9）。

だるまの歴史について調べていた児童は、調べ学習を進めていく中で「少林山からだるまが生まれたからすごいと思いました。少林山に行ってみたくなりました」という感想をワークシートに書いており、その後課題を広げて少林山についても調べていた。また、3年生の総合的な学習の時間で蚕を扱っていたため、「だるまと蚕が関係していたなんてはじめて知った」など養蚕との関わりに気づき、驚いている児童も多かった。

本教材を活用してだるまの作り方について調べていく中で、ほとんどの児童が昔と今のだる



図9 調べ学習の様子

まの作り方の違いに気付いていった。「だるまの作り方」のページでは、初めて見るだるま作りの様子や実際には行われていない伝統的な作り方に興味を示し、それぞれの生産工程の動画を繰り返し見たり、解説のページをじっくり読んだりしていた。特に、だるまを木型からはずす場面（伝統的な作り方）や真空成形でだるまができた瞬間、まゆやひげを描いている場面では、声をあげながら画面に見入っていた。「むかしのだるま作りはとてみたいへんだった」、「現在の作り方ははやい」、「ドロドロの水からだるまができてすごいと思った」など「伝統的な作り方」と「現在の作り方」を比較して考え、自分なりの感想を持たれた児童が多かった。このことから、昔と今の生産工程を比較しながら見ることにより、その違いや共通点を見つけて、伝統を守り継承している人々の工夫や努力にも気付くことができていることが分かる。

授業後のアンケートでは、「もっとだるまについて調べてみたい」、「だるまの作り方がわかった」とほとんどの児童が回答していた。また、調べ学習を進めていく中で、新たな課題を設定したり、動画を繰り返し見たりしている様子から、作成した教材は児童の興味・関心を高め、意欲的な調べ学習を促すのに有効であることが分かった。さらに、課題を調べることを通して、だるま作りとからっ風や養蚕などとの関係を知り、地域の特色と結びつけて考えるきっかけも与えることができた。

「まゆ・ひげかきにちょうせん」では、作品作りに興味を示し、楽しそうに取り組んでいた（図10）。全員の児童が「お手本を見てみよう」の動画を何度も見ながら、慎重にまゆとひげを描き入れていた。活動後の感想には「思ったよりもむずかしかった」、「初めてだったけど楽しかった」、「だるま職人さんはすごいと思った」など自分なりの感想をもつことができた。

このことから、「まゆ・ひげかきにちょうせん」の活動は、児童がだるま作りに携わる人々について考える機会となり、伝統を守り継承している人々の工夫や努力に気付くためのひとつの手がかりとなったと考える。



図10 まゆ・ひげかきに
ちょうせん

研究のまとめと今後の課題

本研究はだるまの学習において、意欲的な学習を促し、地域の特色や伝統を守り継承している人々の工夫や努力に気付くことをねらいとしてマルチメディア教材「なるほど・ザ・だるま」を作成した。動画や静止画を多く取り入れたことにより、児童の興味・関心を高めることができた。また、だるまについて調べていく中で地域との関わりから地域の特色に気付くことができた。さらに、生産工程を比較して見たり、疑似体験を行ったりすることにより、だるま作りに携わる人々の工夫や努力にも目を向け、気付くことができた。

しかし、「もっとくわしく調べてみたい」、「ビデオが見づらいところがあった」、「むずかしい漢字があった」などの児童の声もあり、児童の求めている情報や資料の収集や改善など、児童にとって扱いやすい教材にして行きたいと思う。また、本教材のより有効な活用についてもこれから探っていきたいと考えている。

<参考・引用文献>

- ・「小学校学習指導要領解説 社会編」 文部科学省
- ・安中市社会科副読本「私たちの安中」 安中市教育委員会(2001)
- ・縁起だるまと少林山 少林山達磨寺